**＜論文要旨＞**

**CMS支払代行・回収代行の経済的効果と運用課題**

**福嶋　幸太郎**

大阪ガスファイナンス

（京都大学大学院経済学研究科博士後期課程）

　CMSは、グループ企業全体の現金や流動資産を一元管理し、各社で生じる資金過不足を調整し、効率的な資金利用を図るシステムである。現在、東証1部・2部上場会社の約4割が国内CMSを導入している。その機能のうち、CMS支払代行と回収代行は、参加会社の支払と回収をインハウスバンクが代替し、業務の効率化とコスト削減を実現すると同時に、グループ全体の不正防止とガバナンスを強化するものである。

　これらの運用課題は、参加会社側で会計証憑の確認を実施した場合、関連事務は各社へ分散される結果、インハウスバンク側で集約する場合と比較して、コスト削減効果は不完全な状態に留まることにある。この課題解決には、グループ全体で共通会計システムを導入し、1拠点で証憑確認を実現しなければ、十分な事務コストの削減は図れない。しかしながら、共通会計システムには多額の導入コストが必要なため、コストと経済的効果の検証が不可欠となる。

以上